

日田市立 高瀬小 学校 令和8年 7月 27日

【学校の教育目標】 よりよい答えを求めて、ともに学び続ける高瀬っ子を育てる

【育成を目指す資質・能力】 多面的・総合的に考える力（真実）

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	資質・能力との関連		担当
				知識・技能	思考力・判断力・表現力等	
立場を変えて考え、互いを尊重して関わる	○ 児童質問紙「友だちの気持ちを考えて行動」80%以上(新規)	○ みえる心☆プロジェクト	○ 担任は、「スマイルタイム」でのリフレクションにおける、相手の立場や気持ちを考える場面の設定（毎週水曜日朝会）	○	○	豊かな心
	○ 児童質問紙「自分のよさが分かる」80%以上(新規)					
	○ 児童質問紙「学校が好き」80%以上(R7.3 84%)	○ みえる心☆プロジェクト×家庭	○ 担任は、「ホウホルーレット」を用いた「ホウホルーター」の実施（毎月1回）	○	○	育友会
根拠をもとに考え、対話を通して思考を深める		○ みえる心☆プロジェクト×地域	○ 保護者は、親子読書の実施	○	○	C S
	○ 国語科単元テスト「知識・技能」77%以上(R7.3 77.3%) 「思考・判断・表現」82.0%以上(R7.3 82.0%)	○ みえる学び☆プロジェクト	○ 担任は、「国語科の対話活動における、根拠に基づいた説明と他者の考えとの比較（毎単元）」	○	○	確かな学び
	○ 児童質問紙「国語が好き」70%以上(R7.3 70.2%)					
安全や健康について被害者の行動を判断する	○ 児童質問紙「理由を考え、考えを伝え合うこと」70%以上(新規)	○ みえる学び☆プロジェクト×家庭	○ 保護者は、「ばっちりプリント」の見取りとサイン（毎週末）	○	○	育友会
	○ 児童質問紙「比較・整理し、自分の考えを書くこと」70%以上（新規）					
		○ みえる学び☆プロジェクト×地域	○ 農林部及び公民館は、総合的な学習の時間やクラブ活動（囲碁・料理）、裁縫実習等で学習支援の実施	○	○	C S
安全や健康について被害者の行動を判断する	○ 児童質問紙「以前より速く走れるようになった」80%以上(新規)	○ みえる健康☆プロジェクト	○ 保健体育委員会は、担当教員の指導のもと、天候や校庭の状況を確認し、外遊びの可否の判断（毎日）	○	○	健全な心と体
	児童質問紙「安全を考えて行動」80%以上（新規）					
		○ みえる健康☆プロジェクト×家庭	○ 保健体育委員会は、「安全集会」の実施（学期1回）	○	○	育友会
安全や健康について被害者の行動を判断する		○ みえる健康☆プロジェクト×地域	○ 公民館は、クラブ活動（グラウンドゴルフ・卓球）の活動支援を実施	○	○	C S

【働き方改革の推進】	○ 年間授業時数の超過23単位時間以下(R7.3 25.5単位時間)	○ 教科横断的な視点による効率的・効果的な教育活動の実施	○ 教務主任は、単元配列表による進捗状況の確認（毎月）及び支援の実施	教務
		○ 生活科及び総合的な学習の時間の支援	○ 育友会等は生活科及び総合的な学習の時間の学習支援を実施（別紙計画表）	育友会
		○ 登下校の見守り	○ 「杉の子パトロール隊」は登下校の児童の見守りを実施（毎日）	C S

確認・検証・改善【3回目】

8月 6日(木)実施

(評価 4:100%以上 3:80%以上100%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満 ※%は達成率)

取組指標に対する 取組状況の確認		達成指標に対する 達成状況の確認		達成指標・取組指標の妥当性を 検証	評価 得意 全体	改善方法
取組状況(エビデンス)	実施率	達成状況(エビデンス)	達成率			
教職員アンケート16/6人 教職員研修で、スマイルタイムを実践に ついで、実施の方法を共通理解した上で、 各学年で取り組めた。	100	児童質問紙「友だちの気持ちを考えて行動」 80%以上(新規) →全校児童91%	113.8	スマイルタイムでお互いを認め合いながら活 動をすることで、「友だちの気持ちを考えて行 動」できる児童が増えた結果だと思われる。	4	ホウホルーターを1学期間様に計画的に取り 組むように、教職員に発信をする。
教職員アンケート16/6人 入居の木を児童玄関に設置し、毎月1回取 り組んで、人権の木に掲示した。	100	児童質問紙「自分のよさが分かる」80%以上 (新規) →全校児童78%	97.5	ホウホルーターで、友だちのよさを見つけれ り、伝えたりする活動を楽しんだり、友だちの よさをみつけることはできたが、自分のよさを 自覚するまでには至らなかった。	3	行事ごとに、他学年との関わりを持つ機会を 設けて、たくさん関わり、それをホウホルーター で伝え合う時間(ホウホウタイム)を設定する。
保護者アンケート「親子読書に取り組んで いる」の肯定的回答率36%	36	児童質問紙「学校が好き」80%以上(R7.3 84%) →全校児童87%	108.8	縦割りチームでの異学年との関わりを多く 持ったことで、様々な友だちと関わっていけるよ うな学校行事を全教職員で計画して、きちんと 実施していく。(運動会・高瀬っ子フェスティバル ・ふるさと祭り・チーム遊び等)	4	
毎週金曜日に、各学年に1名ずつ入ってい ただき、読み聞かせを実施できた。	100					
【国語科の対話活動における根拠に基づ いた説明と、他者の考えとの比較をする活動 を取り入れている】に回答した教職員 10 0% (アンケート)	100	【国語科単元テスト】知識・技能：89点 1年：知識・技能：80点 思考・判断・表現：89点 2年：知識・技能：86点 思考・判断・表現：86点 3年：知識・技能：73点 思考・判断・表現：81点 4年：知識・技能：80点 思考・判断・表現：78点 5年：知識・技能：73点 思考・判断・表現：80点 6年：知識・技能：83点 思考・判断・表現：86点 平均：80.0点 思考・判断・表現：83.3点	102	【達成指標】 ○国語科単元テスト「知識・技能」「思考・判断・表 現」今年度は「書くこと」を校内研究テーマとして設定してお り、課題達成を確認するにあたり、原因を分析し授業改 善につなげる必要だと考える。 ○児童質問紙「国語が好き」 ○国語の授業改善が行われることに伴い、国語の愛好感 度向上を図ることと関係するため、妥当だと考える。 ○児童質問紙「理由を考え、考えを伝え合うこと」 ○重点目標の達成指標を図るには、指標として妥当と考 える。 ○児童質問紙「比較・整理し、自分の考えを書くこと」 ○今年度の校内実証において、「比較・整理」という考え 方を重要視しているため、指標として妥当だと考える。	4	【達成指標】 ○国語科単元テスト「知識・技能」「思考・判断・表 現」・達成していない学年もあるため、変更せず継続す る。 ○児童質問紙「国語が好き」 ○全体としては達成しているが、1・3学年以外は未 達成のため、変更せず継続する。 ○児童質問紙「理由を考え、考えを伝え合うこと」 ○4・6学年の学力調査の結果を見ると、記述問題で の誤答や未回答率が高いことから、アンケートと実 証に差があることがわかる。よって、変更せず継続す る。 ○児童質問紙「比較・整理し、自分の考えを書くこ と」 ○今年度達成しているが、学年によって差があるた め、最も達成率の低かった学年の取組に合わせ、 「比較・整理し、自分の考えを書くこと」72%以上に 変更する。
保護者は毎週末のばっちりプリントに見 取りとサインを行った。91.3% (アンケート)	91.3	【国語が好き】 1年：100% 2年：81% 3年：95% 4年：60% 5年：61% 6年：54% 平均72%	102	【取組指標】 ○学校 授業改善に直結する項目であるため、指標として妥当 と考える。 ○家庭 ばっちりプリントについて、学年によって取り組み具 に差が現れたため、2学期以降は統一したうえで指標 を図る必要がある。そのため、指標として妥当と考 える。 ○地域 2学期も農林部や地域人材の支援を必要とする授業を 計画しているため、指標として妥当と考える。	4	【取組指標】 ○学校 授業改善に直結する項目であるため、指標として 妥当だと考える。 ○家庭 ばっちりプリントについて、学年によって取り組み 具合に差が現れたため、2学期以降は統一した うえで指標を図る必要がある。そのため、指標とし て妥当と考える。
【理由を考え、考えを伝え合うこと】 3年：86% 4年：87% 5年：83% 6年：71% 平均82%	117	○「比較・整理し、自分の考えを書くこと」 1年：100% 2年：81% 3年：91% 4年：72% 5年：84% 6年：75% 平均85%	121	安心して運動場で遊べるようになったことで、 外で遊びたいという思いをもちやすくなった。 昨年度までは体育専科がいたことで、運動好 きな児童が多かった。しかし、今年のアン ケート結果も低くはないので、この値をキー としていきたい。	3	途中まで対策を徹底しつつ、安全に外遊びがで きる環境を維持して、体育委員会の放送も引き続 きやっていたことで、児童が安全に運動に親しめる機 会を確保する。
毎日忘れずに行っていた。結果を給食時 間に放送することで、全校児童が運動場で 安心して遊べていた。	100	児童質問紙「運動が好き」96%以上(新規)につい ては、94%の児童が達成できた。	98%	運動場での正しい遊び方やボール遊びの ルールについて、1学期の最初に確認したこ とへの効果を感じた。さらに、間違えた遊び 方をしている児童にはその場で指導し、必要 に応じて放送で呼びかけたことも有効だった と感じた。	4	2学期以降も安全集会を継続して行うとともに、体 育委員会が中心となって、安全な遊び方ができ ている子供を表彰するなど、児童が主体的に安全へ の意識を高められる取り組みを行う。また、危険な 遊び方が見られた際には、その都度指導するとい うこと、放送での呼びかけを継続して、安全な遊び 方について自分たちで判断できる児童を育ててい く。
4月に全校集会で安全集会を行った。昨年 度の運動場の間違った使い方を例に、安 全な使い方を児童に考えさせながら話し	100	児童質問紙「安全を考えて行動」80%以上(新規)に ついては、93%の児童が達成できた。	116%			
保護室から全校児童にプリントを配付して 実施した。	100%					
深実施。2・3学期のクラブ活動時に行う予 定。	0%					

進捗を元、進捗状況を随時確認しながら、ゆづりスタートや期末整理を計画的に実施 できた。	100%	進捗状況に応じて、各学年ごとに時数の調整をしな がら、ゆづりスタートや期末整理を計画的に実施 できた。	100%	月に1回以上確認を実施することで、年間を 通じて計画的に管理ができています。 行事や課外活動などで計画に入れていない ものがあつた。		決まっている活動計画に反映させて、先行管理 を継続して行っていく。
1学期は、1・2年生生活科の半の蓄積と5年総合的な 学習の時間の田植えの支援を行った。	100%	1学期は、1・2年生生活科の半の蓄積と5年総合的な 学習の時間の田植えの支援を行った。	100%			
1学期の「杉の子パトロール隊」による登下校の児童 の見守りを毎日行った。	100%	1学期の「杉の子パトロール隊」による登下校の児童 の見守りを毎日行った。	100%			